

小売業

1. 評価対象企業（22社）

ローソン、エービーシー・マート、アスクル、MonotaRo、J. フロント リテイリング、ZOZO（注）、三越伊勢丹ホールディングス、セブン&アイ・ホールディングス、ツルハホールディングス、良品計画、ドンキホーテホールディングス、スギホールディングス、ユニー・ファミリーマートホールディングス、しまむら、高島屋、丸井グループ、イオン、ケーズホールディングス、ヤマダ電機、ニトリホールディングス、ファーストリテイリング、サンドラッグ

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）当社の商号はスタートトゥデイから変更された（2018年10月）。

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	5	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	14
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	4	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	2	9
計		22	100

（注）評価項目の内容および配点は107頁参照

(2) 評価実施アナリストは35名（28社）である。（108頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（106頁）参照）

- ① 本年度は、**経営陣のIR姿勢等**、**説明会等**、**フェア・ディスクロージャー**および**自主的な情報開示**の4分野において、内容変更、項目の新設・統合、配点変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価点は70.4点（昨年度76.8点）、総合評価点の標準偏差は10.6点（昨年度8.3点）であった。総合評価点が改善した企業が22社中3社（丸井グループ、アスクル、MonotaRO）に留まり、「IR部門へのアクセスの容易性」を評価する項目を除く全項目で得点率が昨年度を下回った。フェア・ディスクロージャー・ルールを導入に伴い、企業のディスクロージャーの姿勢が後退した可能性がある。
- ② 業態別の総合評価平均点は、高得点順に、百貨店（4社：J. フロント リテイリング、三越伊勢丹ホールディングス、高島屋、丸井グループ）：76.7点（昨年度79.7点）、ネット通販（3社：アスクル、MonotaRO、ZOZO）：73.9点（昨年度74.8点）、総合小売・コンビニエンスストア（4社：ローソン、セブン&アイ・ホールディングス、ユニー・ファミリーマートホールディングス、イオン）：73.5点（昨年度77.5点）、専門店（11社：エービーシー・マート、ツルハホールディングス、良品計画、ドンキホーテホールディングス、スギホールディングス、しまむら、ケーズホールディングス、ヤマダ電機、ニトリホールディングス、ファーストリテ

イリング、サンドラッグ) : 66.1 点 (昨年度 75.6 点)、となった。各業態とも昨年度の評価点を下回ったが、特に専門店の下落率が大きかった。

③ 5つの評価分野毎に平均得点率(評価対象企業の平均点/配点(以下省略))を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が70%(昨年度76%)、**説明会等**が75%(昨年度79%)、**フェア・ディスクロージャー**が74%(昨年度82%)、**コーポレート・ガバナンス関連**が67%(昨年度73%)、**自主的情報開示**が60%(昨年度68%)となり、全分野において昨年度を下回った。

④ 評価項目について見ると、平均得点率80%以上の評価項目が**説明会等**および**フェア・ディスクロージャー**の分野の4項目(昨年度10項目)となった。

(a) 「月次の売上状況は、十分に開示されていますか」(平均得点率87%)(得点率(評価点/配点(以下省略)):100%7社・90%台10社・80%台2社)

(b) 「決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が開示されていますか(実績について評価)」(平均得点率84%)(得点率:90%台9社・80%台8社)

(c) 「経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していますか」(平均得点率82%)(得点率:90%9社・80%台6社)

(d) 「経営陣が情報開示につき、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」(平均得点率82%)(得点率:90%8社・80%台10社)

⑤ 一方、次の2項目については、全体的に得点率が低く、平均得点率も昨年を下回った。

(e) 「会社主催の決算説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、かつその内容が充実していますか」(平均得点率51%)(得点率:30%未満4社・30%台6社・40%1社)

(f) 「IR部門以外のセクション(店舗、物流センター、海外拠点等)へのインタビュー等について積極的に対応していますか」(平均得点率60%)(得点率:30%台3社・40%台3社・50%台4社)

⑥ なお、本年度に新設した次の2項目は、平均得点率がともに68%となった。

(g) 「経営トップがフェア・ディスクロージャー・ルールの導入の精神を十分に理解し、適時・適切な開示の後退に繋がることなく、より積極的にIR活動を行っていますか」(平均得点率68%)(得点率:30%台1社・40%台1社・50%台3社・60%台6社・70%台7社・80%台4社)

(h) 「非財務情報(ESG情報等)の開示に積極的に取り組んでいますか」(平均得点率68%)(得点率:40%台2社・50%台6社・60%台3社・70%台5社・80%台3社・90%台2社)

(2) 上位企業(第3位までの4企業)の評価概要

第1位 丸井グループ(ディスクロージャー優良企業[2回目]、総合評価点85.6点[昨年度比+3.5点]、昨年度第7位)

① 同社は、全ての評価分野の得点率が昨年度を上回るとともに、**コーポレート・ガバナンス関連**(得点率(以下省略)90%)、**フェア・ディスクロージャー**(87%)が第1位、**経営陣のIR姿勢等**が同得点第1位(85%)、**自主的情報開示**が同得点第2位(83%)、**説明会等**が同得点第7位(83%)と改善し、総合第1位となった。なお、昨年度と比較可能な18項目中13項目の得点率が改善し、総合評価点および順位の上昇(総合評価点および順位の上昇幅ともに第1位)につながった。

② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営トップがフェア・ディスクロージャー・ルールの導入の精神を十分に理解し、適時・適切な開示の後退に繋がることなく、より積極的にIR活動を行っていること」が同得点第1位となったことに加え、中長期的な展望を伝えるよう努力していることが高く評価された。また、IR部門へのアクセスが容易であることも評価された。さらに、ディスクロージャー・IR全体を通じて、企業理念・中期ビジョンを含め、アナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、適切なレベルの情報開示を維持・改善していることや、「非財務情報(ESG情報等)の開示に積極的に取り組んでいること」も第2位と高い評価となった。

- ③ **説明会等**においては、投資家にとって重要と判断される事項が発生した場合、迅速かつ公平に十分な説明を行っていることが評価された。また、四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報が開示されていることも評価された。なお、開示基準をあまり変えないで欲しいとの意見もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、経営陣がメディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないように取り計らっていることが評価された。また、決算説明会の内容について質疑応答を含め迅速かつ公平にホーム・ページに掲載していることも高く評価された。さらに、英文による情報提供が充実していることも高い評価となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、「コーポレートガバナンス・ガイドライン」と合わせ十分に説明されていることが高く評価された。また、目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取組等について、十分に説明されていることも高い評価となった。さらに、株主還元方針がより明確になったことも極めて高く評価され、この分野の評価項目全てにおいてトップの得点率となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、年2回の「MARUI IR DAY」、物流センター見学会の実施や、「共創レポート」、「ESG データブック」の内容が充実していることが高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 J. フロント リテイリング（総合評価点 83.1 点 [昨年度比-5.7 点]、昨年度第1位）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**（85%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（84%）が第2位、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第3位（84%）、**説明会等**が同得点第4位（85%）、**自主的情報開示**が第7位（69%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営トップがフェア・ディスクロージャー・ルールの導入の精神を十分に理解し、適時・適切な開示の後退に繋がることなく、より積極的に IR 活動を行っていること」が第3位となった。また、IR 部門にグループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積され、有益なディスカッションができること、同部門へのアクセスが容易であることも評価された。さらに、ディスクロージャー・IR 全体を通じて、企業理念・中長期ビジョンを含め、アナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、適切なレベルの情報開示を維持・改善していることも高く評価された。
- ③ **説明会等**においては、投資家にとって重要と判断される事項が発生した場合、迅速かつ公平に十分な説明を行っていること、**IFRS** の導入をはじめ会計方針等の制度変更が生じた場合、過去の数値と比較できるような情報の開示が十分に行われていることが評価された。また、四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報が開示されていることも評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、経営陣がメディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないように取り計らっていることが評価された。また、決算説明会の内容について質疑応答を含め迅速かつ公平にホーム・ページに掲載していることも高く評価された。さらに、英文による情報提供が充実していることも評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について「コーポレートガバナンス方針書」により十分説明していることが高く評価された。また、目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取組等について、十分に説明されていることも高く評価された。さらに、資本政策や配当政策・自社株買い等の株主還元策について説明されていることも評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、中期展望や社外取締役インタビュー等を掲載している「統合報告書」の内容が充実していることが評価された。ただし、「会社主催の決算説明会以外の IR イベント」に関して、得点率が低く、改善が望まれる。

同得点第3位 セブン&アイ・ホールディングス（総合評価点 82.8 点 [昨年度比-4.2 点]、昨年度第3位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第1位（87%）、**説明会等**が同得点第2位（86%）、**フェア・ディスクロージャー**が第3位（84%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が同得点第4位（78%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第5位（82%）となった。

- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営トップがフェア・ディスクロージャー・ルールの導入の精神を十分に理解し、適時・適切な開示の後退に繋がることなく、より積極的に IR 活動を行っていること」が同得点第 5 位となった。また、IR 部門にグループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積され、有益なディスカッションができること、同部門へのアクセスが容易であることも評価された。さらに、ディスクロージャー・IR 全体を通じて、適切なレベルの情報開示を維持・改善していることが評価されたほか、「非財務情報（ESG 情報等）の開示に積極的に取り組んでいること」が第 3 位となった。なお、不振事業についてより積極的な説明が求められるとの意見があった。
- ③ **説明会等**においては、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していることが評価された。また、投資家にとって重要と判断される事項が発生した場合、迅速かつ公平に十分な説明を行っていること、会計方針等の制度変更が生じた場合、過去の数値と比較できるような情報の開示が十分に行われていることも評価された。さらに、四半期の動向を理解するために必要な説明資料が質・量ともに優れていることも評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、決算説明会の内容について公平にホーム・ページに掲載していることが評価された。また、英文による情報提供が充実していることも評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・レポート」により、目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取組等について、詳細に説明されていることも評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「会社主催の決算説明会以外の IR イベント」に関して、商品展示会、事業説明会の内容が充実していることが評価されたほか、社外取締役との対談が掲載された「統合レポート」、ヒストリカルデータの取れる「コーポレートアウトライン」の内容が充実していることにより、この分野でトップの評価となった。

同得点第 3 位 ドンキホーテホールディングス（総合評価点 82.8 点〔昨年度比-5.1 点〕、昨年度第 2 位）

- ① 同社は、**説明会等**（86%）、**自主的情報開示**（83%）が同得点第 2 位、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 3 位（84%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が同得点第 4 位（78%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 6 位（81%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営トップがフェア・ディスクロージャー・ルールの導入の精神を十分に理解し、適時・適切な開示の後退に繋がることなく、より積極的に IR 活動を行っていること」が第 4 位となった。また、IR 部門にグループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積され、有益なディスカッションができること、同部門へのアクセスが容易であることも高く評価された。さらに、ディスクロージャー・IR 全体を通じて、企業理念・中長期ビジョンを含め、アナリストや投資家と対話しようとする姿勢も評価された。
- ③ **説明会等**においては、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していることが昨年度に続きトップの評価となった。また、投資家にとって重要と判断される事項が発生した場合、迅速かつ公平に十分な説明を行っていることも評価された。さらに、四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報が開示されていることも評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、決算説明会の内容について迅速かつ公平にホーム・ページに掲載していることが評価された。また、英文による情報提供が充実していることも評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取組等について、十分に説明されていることが評価された。また、資本政策について客観的かつ合理的に説明されていることも評価された。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「会社主催の決算説明会以外の IR イベント」に関して、店舗見学会などを積極的に行っていることが高く評価され、第 1 位となった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ アスクル（総合評価点 81.5 点〔昨年度（公表外）比+0.4 点〕、第 5 位）

- ① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 1 位（85%）、**自主的情報開示**が第 4 位（82%）、**説明会等**が同得点第 4 位（85%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営トップがフェア・ディスクロージャー・ルールの導入の精神を十分

に理解し、適時・適切な開示の後退に繋がることなく、より積極的に IR 活動を行っていること」が同得点第 1 位、「IR 部門へのアクセスの容易性」が第 1 位の評価となった。

③ 自主的情報開示においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「会社主催の決算説明会以外の IR イベント」に関して、物流センターの見学会が有益と高く評価され、第 2 位となった。

○ ユニー・ファミリーマートホールディングス (総合評価点 81.3 点 [昨年度比-1.6 点]、第 6 位 [昨年度第 6 位])

① 同社は、説明会等が第 1 位 (86%)、フェア・ディスクロージャーが第 4 位 (84%)、自主的情報開示が第 5 位 (80%) となった。

② 説明会等においては、「IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」が第 2 位となったほか、「投資家にとって重要と判断される事項が発生した場合、迅速かつ公平に十分な説明を行っていること、セグメント分類や IFRS の導入をはじめ会計方針等の制度変更が生じた場合、過去の数値と比較できるような情報の開示が十分に行われていること」も同得点第 3 位となり、説明会等の分野で第 1 位の評価につながった。

以 上

2018年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (小売業)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8252 丸井グループ	85.6	27.2	1	20.8	7	12.2	1	17.9	1	7.5	2	7
2	3086 J.フロントリテイリング	83.1	27.0	3	21.2	4	11.9	2	16.8	2	6.2	7	1
3	3382 セブン&アイ・ホールディングス	82.8	26.2	5	21.5	2	11.8	3	15.5	4	7.8	1	3
3	7532 トンキョーホールディングス	82.8	27.0	3	21.5	2	11.3	6	15.5	4	7.5	2	2
5	2678 アスクル	81.5	27.2	1	21.2	4	11.2	9	14.5	7	7.4	4	未実施
6	8028 ユニー・ファミリーマートホールディングス	81.3	25.6	6	21.6	1	11.7	4	15.2	6	7.2	5	6
7	2651 ローソン	78.4	24.9	8	20.6	9	11.6	5	14.5	7	6.8	6	5
8	7453 良品計画	78.0	23.4	9	21.2	4	11.3	6	16.0	3	6.1	8	4
9	3064 MonotaRO	76.2	25.0	7	20.8	7	10.5	12	13.9	10	6.0	9	未実施
10	9983 フェアストリテイリング	72.0	23.0	10	17.9	14	11.3	6	14.3	9	5.5	10	12
11	8233 高島屋	71.0	23.0	10	19.1	11	11.0	10	12.5	16	5.4	11	10
12	3391 ツルハホールディングス	69.8	22.3	12	20.5	10	9.8	15	12.9	13	4.3	15	8
13	3099 三越伊勢丹ホールディングス	67.0	20.9	16	17.9	14	10.2	13	13.3	11	4.7	13	17
14	8282 ケーズホールディングス	66.8	21.6	13	18.4	13	9.6	17	13.1	12	4.1	17	9
15	9989 サンドラッグ	65.4	21.2	15	17.8	16	9.8	15	12.7	14	3.9	18	11
16	7649 スギホールディングス	64.8	20.0	17	18.5	12	9.9	14	12.1	17	4.3	15	14
17	3092 ZOZO	64.0	21.5	14	16.0	20	10.6	11	12.0	18	3.9	18	13
18	9843 ニトリホールディングス	60.3	15.6	22	17.8	16	9.1	19	12.6	15	5.2	12	15
19	2670 エーピーシー・マート	58.3	19.5	18	17.0	19	8.6	21	10.1	20	3.1	21	18
20	8227 しまから	57.5	18.6	19	17.3	18	8.9	20	9.9	21	2.8	22	16
21	8267 イオン	51.5	15.8	21	12.3	22	9.6	17	9.4	22	4.4	14	20
22	9831 ヤマダ電機	50.9	15.9	20	13.5	21	6.9	22	10.7	19	3.9	18	19
	評価対象企業評価平均点	70.41	22.38		18.84		10.40		13.42		5.37		

(注1) 総合評価点と同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。
(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は10.6点(昨年度8.3点)であった。

2018年度 評価項目および配点（小売業）

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (32点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 経営トップがフェア・ディスクロージャー・ルールの導入の精神を十分に理解し、適時・適切な開示の後退に繋がることなく、より積極的にIR活動を行っていますか。	11
(2) IR部門の機能	
① IR部門に、グループ会社を含む十分な情報がタイムリーに集積されており、有益なディスカッションができますか。	6
② IR部門へのアクセスの容易性はどうか。	6
(3) IRの基本スタンス	
① 当該企業のディスクロージャー・IR全体を通じて、企業理念・中長期ビジョンを含め、アナリストや投資家のニーズを十分理解した上で、適切なレベルの情報開示を維持または改善していますか。	6
② 非財務情報（ESG情報等）の開示に積極的に取り組んでいますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (25点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していますか。	3
② IR部門以外のセクション（店舗、物流センター、海外拠点等）へのインタビュー等について積極的に対応していますか。	5
(2) 説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示 （以下①-④については、持株会社の場合、主要事業会社についての記載を評価する）	
① 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が開示されていますか（実績について評価して下さい）。	3
② 決算短信・添付資料と同時に、企業分析に必要かつ十分な補足資料が開示されていますか（次期事業計画について評価して下さい）。	3
③ 月次の売上状況は、十分に開示されていますか。	2
④ 投資家にとって重要と判断される事項（例えば、業績変動、合併・提携等）が発生した場合、迅速かつ公平に十分な説明を行っていますか。また、セグメント分類やIFRSの導入をはじめ会計方針等の制度変更が生じた場合、過去の数値と比較ができるような情報の開示が十分に行われていますか。	3
(3) 四半期情報開示	
・ 四半期の動向を理解するために必要な基本的な情報が開示されていますか。	6
3. フェア・ディスクロージャー	配点 (14点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
① 経営陣がメディアを含む総合的な情報開示につき、不公平や混乱が生じないようにしていますか。	4
② 経営陣が情報開示につき、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。	2
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ 決算説明会等の内容（注）を迅速かつ公平にホーム・ページに掲載していますか。 （注）質疑応答を含めて評価してください。	5
(3) 外国人投資家向け情報提供	
・ 英文による情報提供は充実していますか。	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (20点)
(1) コーポレートガバナンス・コード	
・ コーポレートガバナンス・コードの各項目について、その精神を理解し、進捗状況を含め十分な説明がなされていますか。	8
(2) 目標とする経営指標等	
・ 目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取り組み等について、十分説明されていますか。	5
(3) 資本政策、株主還元策の開示	
① 資本政策（資金調達、グループ持合政策、優先株）について、客観的かつ合理的に説明されていますか。	3
② 配当政策・自社株買い等株主還元策について、客観的かつ合理的に説明されていますか。	4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (9点)
① 会社主催の決算説明会以外のIRイベントを積極的に実施し、かつその内容が充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]	4
② 統合報告書、ESG報告書、ファクトブック、その他これらに準ずるものの内容は充実していますか（ホーム・ページ可）。	5

小売業専門部会委員

部会長	小場 啓司	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
部会長代理	高橋 俊雄	みずほ証券
	風早 隆弘	ドイツ証券
	金森 都	SMBC 日興証券
	仲西 恭子	アセットマネジメント One
	花井 由紀子	日興アセットマネジメント
	村田 大郎	JP モルガン証券

評価実施アナリスト（35名）

有沢 正一	岩井コスモ証券	田村 真一	極東証券経済研究所
五十崎 義将	東京海上アセットマネジメント	津田 和徳	大和証券
伊藤 彰洋	三井住友アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
岩佐 慎介	みずほ証券	永田 和子	QUICK
大場 剛平	野村アセットマネジメント	仲西 恭子	アセットマネジメント One
風早 隆弘	ドイツ証券	納 博司	いちよし経済研究所
金森 都	SMBC 日興証券	成清 康介	野村証券
金森 淳一	岡三証券	花井 由紀子	日興アセットマネジメント
栗城 拓也	りそな銀行	藤根 靖晃	ティー・アイ・ダヴリユ
高 英詞	野村アセットマネジメント	堀内 敏成	QUICK
小場 啓司	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	松本 隆	東海東京調査センター
近藤 将人	三井住友信託銀行	牟田 知倫	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
篠崎 真紀	モルガン・スタンレー MUFG 証券	村田 大郎	JP モルガン証券
清水 純一	ドイツ証券	守屋 のぞみ	UBS 証券
高田 訓弘	三菱 UFJ 国際投信	安岡 智史	三井住友信託銀行
高橋 俊雄	みずほ証券	柳平 孝	いちよし経済研究所
宝田 めぐみ	東洋証券	渡辺 洋之	三井住友アセットマネジメント
武久 緩美	JP モルガン・アセット・マネジメント		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。